

校長室より

二松学舎大学附属高等学校

校長 鵜飼敦之

「二松から飛翔へ」～一期一会～

応援がつなぐ母校への想い～野球部夏の大会、始まる～

二松学舎といえば「野球」のイメージを持つ方が多いのではないでしょうか。実際、先日7日（日）に東京経済大学（国分寺キャンパス）で行われた本校の学校説明会でも、説明ブース前に掲げたポスターを見ながら、「ここって、野球が強い学校だよね」と親子で話している姿を目にしました。

その野球部ですが、7月5日に開幕した全国高等学校野球選手権大会に出場しています。この大会はご存じの通り、東京が「東東京」「西東京」に分かれ、それぞれの優勝校が甲子園大会に出場する、高校球児にとって最大の舞台です。

本校は開幕試合に登場し、都立両国高校を相手に13対0の5回コールドで快勝。危なげないスタートを切りました。続く2回戦でも足立学園に11対1で勝利し、こちらも5回コールド。順調に駒を進めています。

1回戦は期末考査期間中だったため、一般生徒の応援は叶いませんでしたが、2回戦では応援三部（応援同好会、チアリーディング部、吹奏楽部）に加え、多くの生徒たちがスタンドで応援に加わってくれました。私の後ろでは、野球応援が初めてと思われる女子生徒たちが、情報を交換し合いながら試合を楽しんでいる様子がありました。バックスクリーンの電光掲示板を見て、「名前の横の番号はポジションなんだって」「4はセカンド、6はショートらしいよ」と話し合う声が印象的でした。

そして、得点のたびに歌われる学生歌。試合終了後、「13日もぜひ応援よろしくね」と声をかけると、「はい」と笑顔で答えてくれた姿に、こちらまで嬉しくなりました。こうして生徒たちが応援を通じて校歌や学生歌を覚え、母校への愛着を育んでくれることは、何よりも誇らしいことです。

野球部の諸君は、ノーシードからの挑戦という厳しい道のりを歩んでいます。これからは、さまざまな球場で、しかも朝一番だったり午後からだったりと、試合条件も決して万全とは言えません。それでも、一戦一戦を大切にし、夢の実現に向かってひたむきに挑んでくれることを願っています。

その力強く、たくましい姿が、きっと学校全体に勇気と元気を運んできることでしょう。



教員研修会～教えるために“学ぶ”ということ～

教員自身の資質向上と授業・生徒指導のさらなる充実を目指し、定期的に校内研修を行っています。教育現場で直面する課題や、時代に左右されない不易のテーマを取り上げ、教員が共に学び合う機会を設けています。今年度は、期末考査中の7日に1回目の研修会を実施しました。教育は日進月歩です。10年前と同じ授業、同じ指導がそのまま通用する時代ではありません。社会や生徒を取り巻く環境が大きく変化する中で、私たち教員も常に自らをアップデートし、生徒の学びと成長を支えるために研鑽を積む必要があります。

今回は、スクールカウンセラーの古賀先生を講師に迎え、「思春期の体調不良～睡眠・自律神経との関連について～」をテーマに研修を行いました。思春期の生徒に見られる体調不良の背景には、睡眠不足や生活リズムの乱れ、自律神経の不調など、様々な要因が複雑に絡み合っていることを学びました。特に

「質のよい睡眠」の重要性について、科学的知見に基づくお話を伺い、教職員一同、生徒をより深く理解し、寄り添う視点を改めてもらつことができました。

教員の学びは、生徒のより良い学びと学校生活のためにあります。今後も学校全体で学ぶ文化を大切にしながら、一人ひとりの生徒にとって安心で前向きな学びの場を築いてまいります。保護者の皆様にも、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

